

遠別町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

遠別町は人口約3,000人の過疎地域であり、市町村生活路線として、上遠別線、遠別清川線の2路線でバスが運行されているが、両路線ともに、地域の人口の減少や日常の交通手段として自動車を利用する人が増えたことにより、バス利用者は年々減少し、一般利用者（児童生徒は除く）は非常に少ない状況にある。

しかし、地域の過疎化や高齢化により、将来、身近な公共交通機関の果たす役割がより重要になることが予想され、現行のバス路線では、不便な点が見られ、十分なサービスを提供できないことから、運行形態の見直しが求められている。

さらに、無駄な運行も多く見受けられ、地域の多様なニーズに対応しつつ、安心・安全な交通サービスを提供する必要がある。

遠別町生活交通ネットワーク計画の目標・効果

【目標】

- ・デマンドシステムと小型車両による運行により、コスト削減及び地域内運行の広域化を図る。
- ・通学児童生徒の登下校への対応を考慮した上で、適正な利用促進の為の運行体制を整備する。
- ・上遠別線 利用者数 10人/日以上 ・清川線 利用者数 20人/日以上

【効果】

- ・デマンド運行の実施により、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保され、効率的な運行体系が実現できる。さらには、区域運行と小型車両の導入により、利便性が高まり、多様なニーズへの対応を実現することができる。

平成25年度事業概要

遠別町デマンドバス運行事業

- 遠別 ～ 上遠別地区
- 遠別 ～ 清川地区

地域公共交通の現況

- ・沿岸バス(株) (町外2路線、町内2路線)

遠別町地域公共交通会議開催状況

平成24年 6月11日 第1回会議を開催

- ・平成24年度地域内フィーダー系統確保維持事業計画の変更について
- ・清川遠別線・上遠別線の運行状況について

平成24年11月22日 第2回会議を開催

- ・平成25年度地域内フィーダー系統確保維持事業計画の変更について
- ・市街地におけるバス停留所の追加について
- ・精神障がい者割引運賃の設定について

平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

◎ プロセス

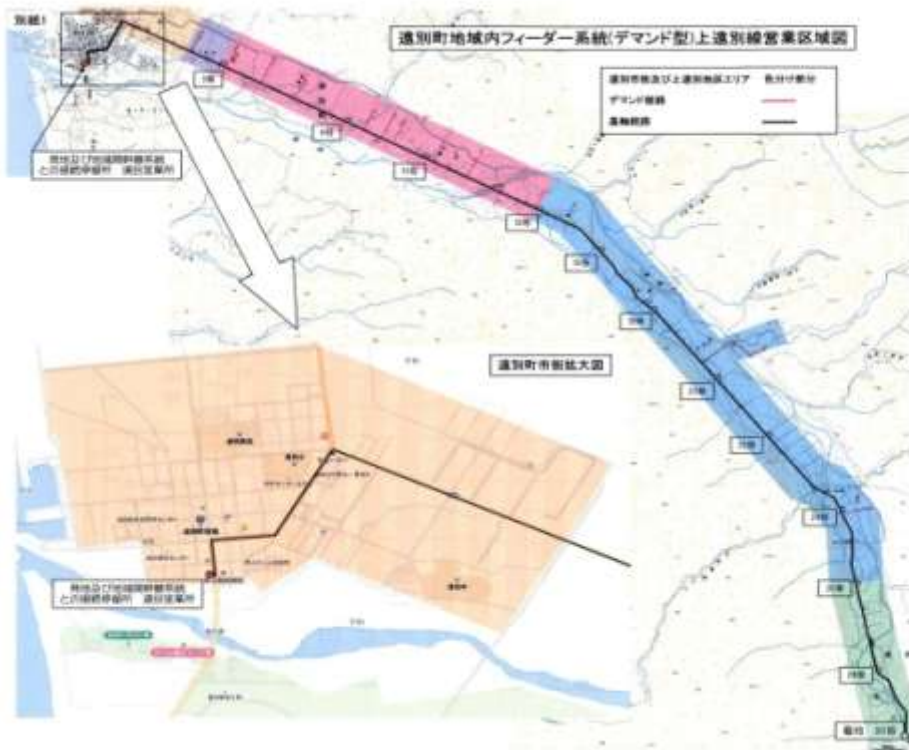
- ・平成23年1月、市町村生活バス路線運営形態検討委員会からのスクールバスの混乗化及びデマンド方式での町による有償運行が望ましいとの報告書が提出される。
- ・平成23年8月、遠別町地域公共交通会議立ち上げ。(第1回会議)
- ・平成23年11月、第2回遠別町地域公共交通会議開催。
- ・平成24年2月、第3回遠別町地域公共交通会議開催。
- ・平成24年4月から地域公共交通確保維持改善事業によりデマンド運行開始。

◎ 創意工夫

- ・上遠別線及び遠別清川線を地域内路線と位置付け、公共交通機関の地域間基幹バス系統に接続した。

2) 運行ルート

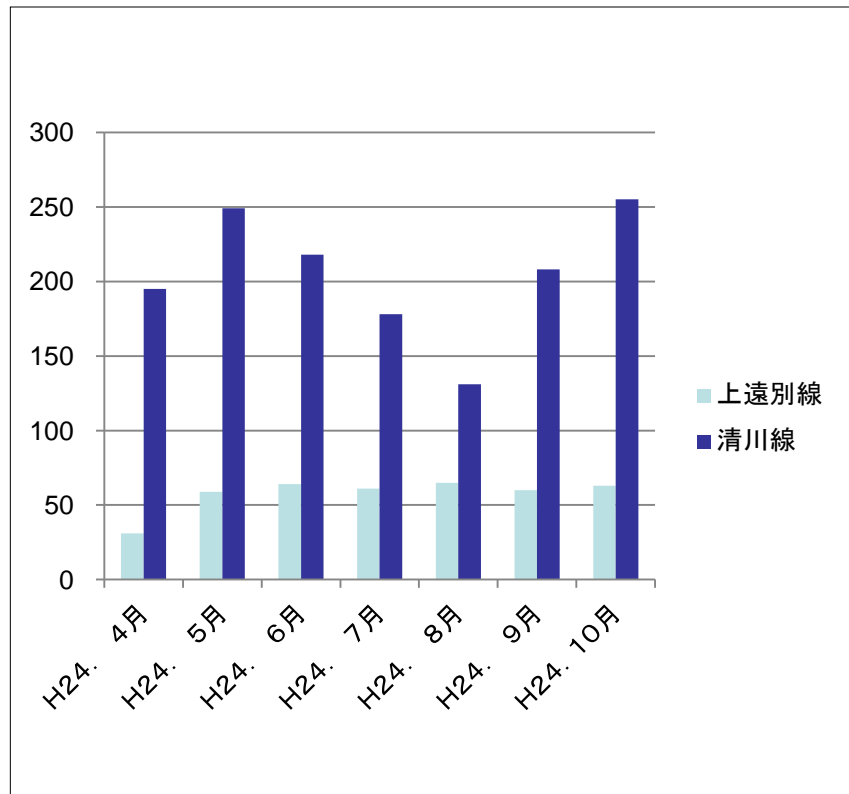
① ルート1(上遠別線)



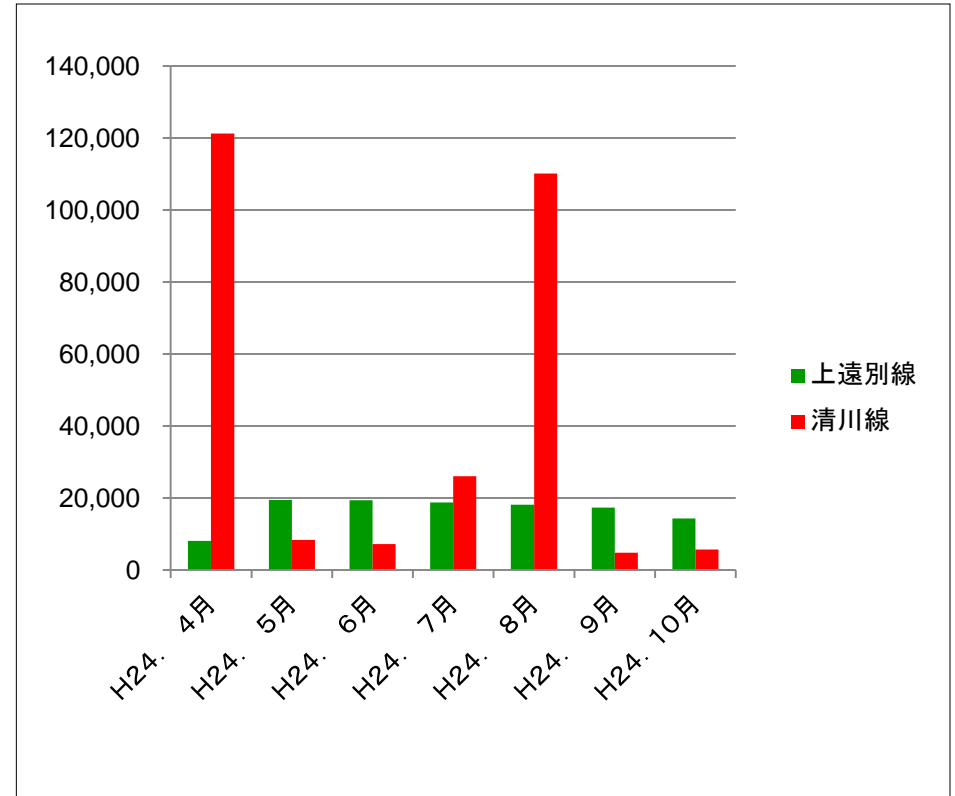
② ルート2(清川線)



3) 利用実績



4) 収入実績



※定期券収入により、4月と8月が際立って高くなっている。

5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

◇上遠別地区

目標は10人／日以上に対して2.2人／日であった。

予定していた小学生が低学年のため保護者が送迎していたこともあり、目標をかなり下回った。

◇清川地区

目標20人／日以上に対して7人／日であった。

小学生の通学利用が主であり、学校の夏季・冬季休業等や一般の利用が少なかったこともあり目標を下回った。

両線とも目標は下回ったが、10月11日より小型車両の導入に伴い利用者の利便性が向上した。

7) 事業の今後の改善点

双方向システム等を使い地域住民にPRすることにより、バス利用の促進を図る。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。
- ・事業実施に当たって小型車両の導入等住民の利便を高める地域に密着した取り組みが行われた点は評価するが、見込み違いにより実績が目標を大きく下回っているため、現状の実績と今後の利用見込みを精査した上での目標値の再設定と持続可能な交通体系の確保に向けた取り組みを期待する。